

区分

A 中小都市、過疎地など
【人口10万人未満の自治体】

空間的交通空白の解消

他分野による交通事業の活用

商業×交通

観光・農業
×交通

医療・介護・健康
×交通

対象地域

- 地域：宮城県利府町
- 人口：35,182人
- 世帯数：12,538世帯
- 高齢化率：24.7%
- 面積：44.89km²

背景・お困りごと

- 利府町は**路線バス・町民バス**の便数が限られており、高齢者などの**車が使えない住民の買い物施設や、主要な病院へ快適にアクセスできる環境が必要**
- 開発事業により**都市構造が変化し新たな町の拠点へのアクセス手段の確保や増加する人口への対応が必要**
- グランディ・21（宮城県総合運動公園）での**イベント時における来訪手段の充実や、イベント来訪者の回遊性向上も望まれる**

実施内容

町内の公共交通を補完する乗合型AIオンデマンド交通を運行、昨年度から運行エリアを拡大(約10km²→約18.3km²)し、乗降場所も増加させ利便性を拡大

概要

- モード：乗合型AIオンデマンド交通（道路運送法第21条許可）
- 予約方法：電話・アプリ
- 料金：大人300円/回、子供150円/回
回数券1,500円/6回
定額5,000円/月

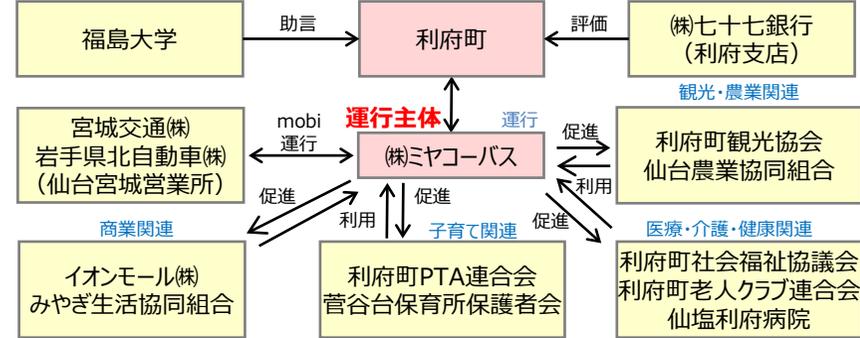


重要ポイント

- **外出機会の創出や地域経済の活性化**のために、公園・児童館・習い事施設、地場産品を取り扱う小売店などの**乗降場所を追加(197⇒234カ所)**
- **事業性向上**のために、車体・車内・アプリを活用した**広告を配信**
- 楽天イーグルス二軍戦にてPRブースを設けてプロモーションを行ったほか、介護サポート研修会、利府町ボランティア友の会総会、商業施設内での広報活動など**共創パートナー等と連携して、利用者増加の取り組みを実施**

意思決定・実施主体

公共交通及び事業の意見調整



運行実績・成果

運行実績

- 運行期間：2024/4/1～2025/1/31（補助事業としては2024/8/22～）
- 利用者数：11,274名（予約件数 9,158件）
- 1月の乗合率：約30%

収入	1,929,600円 (内訳 運賃収入:1,863,600円、広告収入:66,000円)
支出	17,653,895円 (システム開発費・事業分析経費・プロモーション費用等)
ランニングコスト	23,021,680円 (運行費用・システム利用料・コールセンター費用等)
損益	▲38,748,975円 ※利府町が負担（共創・MaaS実証プロジェクトを活用）

成果

- 利用者のうち**約56%が外出意欲が増加した**と回答しており、**約0.20回/週の外出回数の増加が確認**できた
- 商業施設から「**本事業を利用する買い物客を見かける頻度が増えてきた**」との声があった
- 本事業により**バス乗り継ぎの利便性向上が確認**できたが、**一部バス路線で利用者が減少**しており、重複運行の改善が必要

今後の事業展開

<今後の事業展開時の運行における根拠法令（予定）：道路運送法第21条許可>

- 収支状況、既存運送事業者への影響を確認し、事業の有効性の考察結果とあわせ、事業の継続が可能な交通サービスとするための事業内容の見直しを行い、本格運行を目指すとともに、路線バスや町民バスの利用状況の変化を分析し、本町に適したバス路線の再編を検討する